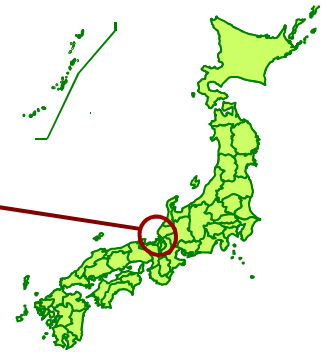


# 株式会社まちづくり小浜

## [地域DMO]

マネジメント区域：【福井県】小浜市



### DMOの特徴

#### ▶地域商社的なDMO

市民や団体、水産業など多種多様な主体の参画による観光地域づくりを推進し、地域産業・経済の活性化による持続的な発展を牽引する組織として設立されたDMO。小浜市や若狭おばま観光協会などと連携して、「リアス式の海と食」、2つの日本遺産「御食国若狭と鯖街道」「北前船の寄港地」を核とした観光資源と宿泊施設、観光体験プログラムを展開。

#### ▶歴史的資源を活用した観光資源の磨き上げ

○2015年度観光庁「観光地魅力創造事業」と小浜市「観光まちづくり事業」「空き家リノベーション観光活用事業」を利用し、小浜市の重要伝統的建造物群保存地区「小浜西組」を中心とした滞在型観光まちづくり推進の一環として、町家の宿事業「小浜町家ステイ」を運営。クラウドファンディング、中小企業庁・文化庁の補助事業も活用しながら、事業を拡大しており、重伝建地区以外の町家も含めて更に運営店舗数拡大を計画。

○町家の宿、料亭、カフェ、ギャラリー、土産物屋、体験工房などの誘致と合わせて活気のある町並みを再生し、地元の方々が生活し、お客様にも楽しんでいただける交流型のまちの再生を進行中。

#### ▶民間と連携した運営体制

DMOの取締役構成は行政、多様な団体、産業の代表者となっている。最大出資者でもある小浜市や、各団体、事業者と連携し、官民一体型の運営を実施。取締役会、株主総会でトップ間の戦略の共有を行うとともに、各種事業実施等で情報共有を図り、計画、事業実施、情報発信などをDMOが中心となり実施。

#### ▶収益事業の展開

小浜市などからの受託事業により、公益事業を実施するとともに、道の駅若狭おばま、レストラン、駐車場の指定管理事業を実施。道の駅若狭おばまと食事処濱の四季事業に加え、小浜町家ステイ（町家の宿）事業を実施。道の駅若狭おばまの収益が運営資金的に最も大きい。



## DMOの取組における優先課題

### ▶周辺地域との連携強化

今後京都、北陸、丹後、琵琶湖など周辺地域との連携を強めながら、インフラ、2次交通環境整備を進めながら誘客を図っていくことが課題。

### ▶海外プロモーションのための人材確保

海外向け情報発信については、これまで、SAVOR JAPANサイトによる海外発信認知度を高める活動、商談会出店によるプロモーションを実施。今後、海外等への魅力のPRのため、一元的に情報発信を行う必要がある。

### ▶担い手不足

内外海地区は漁港と漁業集落がリアス式の海岸沿いに点在し、多様な魚介類と漁家料理を味わうことができるが、高齢化が進行し後継者不足と老朽化が課題。

## 課題解決に向けた取組

### ▶周辺地域との連携強化に向けた広域周遊事業の取組

熊川・三方五湖・小浜・美山等の周辺地域と連携し、北関西周遊型旅行商品造成（観光庁令和3年度「コンテンツ造成事業・受入環境整備・旅行商品流通環境整備」）FIT向けのレンタカーツアーを造成。一棟貸しの宿と体験コンテンツ組み合わせによりコロナ禍に対応した新たな旅のスタイルを確立する。

### ▶プロモーションに向けた人材確保

地域の取材記事、画像、動画について、SNS等を通じて海外プロモーションを推進する。英語による情報発信も可能な専門性の高い人材について、令和3年度から登用を検討中。

### ▶旅館の再生

後継者不足により運営困難となった海岸沿いの旅館を、金融機関からの支援を受けリノベーションを計画している。新たに付加価値の高い宿泊体験ができる旅館として再生を図る。

## DMOからのコメント

昨年度はZoom会議だけでなく、小浜まで視察に来ていただき、更に広域周遊事業、専門家人材派遣事業他いろいろとアドバイスをいただきありがとうございました。小浜町家ステイの宿泊事業、道の駅若狭おばまの物販事業などを核に集客と経済活性化を進めていますし、周辺連携、プロモーション強化、再生事業の進展などによりインバウンド対応を強化しつつありますが、今後とも更なるご支援をお願いします。

## お問い合わせ先

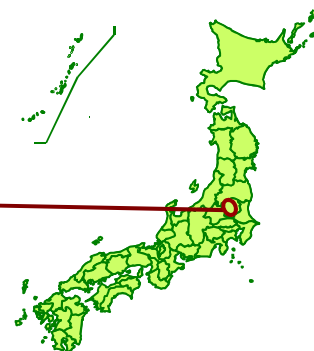
(株) まちづくり小浜

TEL:0770-56-3366

URL:<http://obamakankokyoku.com/>

## (一社) DMO日光 [地域DMO]

マネジメント区域：【栃木県】日光市



### DMOの特徴

栃木県日光市をマネジメントエリアとする地域DMO。世界遺産・国立公園を有する日光市において多様な観光資源の魅力を最大限に活かし、インバウンド（訪日外国人旅行）誘致に向けた観光振興の取組を地域の関係者と一体となって推進することにより、地域経済に寄与し、豊かな地域社会の実現を図ることを目的として活動に取り組んでいる。

#### ▶ DMO日光による事業の役割分担

DMO日光では、観光振興の取組に関して、行政、観光協会、DMO日光での役割分担を明確化した。市は観光振興ビジョン・観光戦略の策定など、観光全体の計画・方針・方向性の意思決定を行う機関とし、観光協会は国内誘客を対象としたプロモーション、受入環境整備、人材育成・環境美化推進、観光案内所管理運営、観光地づくりの推進、観光コンテンツの開発・販売、観光関連施設管理運営受託、市内イベントの開催及び支援などを実施。DMO日光はインバウンド（訪日外国人旅行）を対象とした観光コンテンツの開発・マーケティング、インバウンドの受入基盤整備支援、国内外向けの魅力的なコンテンツの開発・強化、観光マーケティング・データ分析・誘客戦略の策定、国外誘客プロモーションを担っている。各組織間においてそれぞれが情報共有を行い連携を図り取り組んでいる。

#### ▶ DMO日光による地域の合意形成

DMO日光の理事による推薦及びインバウンド誘致に詳しい観光事業者から選定された構成員で、インバウンド（訪日外国人旅行）に関する課題・情報・展望の共有・具体的施策を行う「インバウンド戦略会議」を設置した。

令和2年8月にインバウンド戦略会議キックオフイベントを開催し、観光庁内の有識者から成る「世界水準のDMOのあり方に関する検討会」の座長を務めた矢ヶ崎紀子先生を講師に迎え、「DMOの役割」について講演を実施した。その後、インバウンド誘客戦略策定に向けインバウンド戦略会議を3回開催する他、広大な面積を持つ日光市において地域毎に課題を抽出する必要があることから、各地域において意見交換会を実施した。

## DMOの取組における優先課題

### ▶専従職員の不足

これまで、DMO日光は地元専従職員の不在や地域の関係者との合意形成が図れる体制となっていない等の課題を有していた。インバウンド受入れ環境整備や戦略的な情報発信等の事業遂行をするためには地域の合意形成を図るための、観光業の経験を持つ地元専従職員人材が必須である。

### ▶データ分析・誘客戦略人材の不足

日光市は観光資源に恵まれているが、近年観光客が減少するなどの課題を抱えている。主な課題として、「宿泊客の減少」、「繁閑差が大きい」、「滞在時間が短い」、「マイカー利用が多い」等が挙げられる。課題解決に向けインバウンドを呼び込むことが重要となり、これらの課題を分析し、誘客戦略の策定が必須である。しかしながら、課題を整理するためのデータ分析や戦略に長けた人材が不足していた。

## 課題解決に向けた取組

### ▶観光庁の支援制度を活用した人材登用

「世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業」を活用し、インバウンド受入れ環境整備や戦略的な情報発信等を、地域の合意形成を図りながら推進するため1名を専従職員として登用した。また、日光市における課題を整理するためのデータ分析や誘客戦略の策定を担う専門人材3名を雇用し組織体制の強化、課題解決に向けて取り組んでいる。

### ▶観光庁の支援制度を活用した観光地視察、研修・セミナー

「人材交流や海外観光地域視察、研修・セミナー等の受講による中核人材の育成」を活用し、DMOの先進取組地域にて現地視察、研修・セミナーに参加した。行政、観光協会、DMOの役割や地域観光事と業者、地域観光事業者、住民との合意形成までの活動など、多くを学ぶ研修・セミナーとなった。今後は日光市における課題解決のために、地域ごとに丁寧に意見交換と情報共有を行う予定。

## DMOからのコメント

組織体制を抜本的に見直し、令和2年7月にインバウンド事業に特化した組織に改編したことから、観光庁の支援制度を上手く活用できなかったが、今回、重点支援DMOになったことで、担当者から効果的かつ戦略的な事業のアドバイスやサポートをいただき、大変感謝しております。今後も引き続き情報提供や支援を宜しくお願い致します。

## お問い合わせ先

(一社) DMO日光

TEL:0288-25-3320

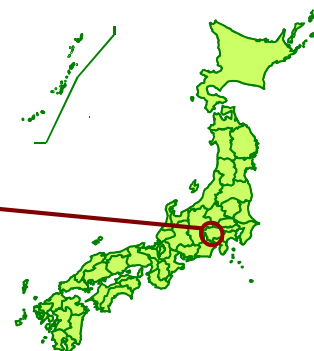
URL:<https://dmo-nikko.jp/>



# (一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

## [地域連携DMO]

マネジメント区域：【山梨県】北杜市  
【長野県】富士見町、原村



### DMOの特徴

平成22年4月国の観光圏整備法の認定を受けた八ヶ岳観光圏の舵取り役として設立。当法人がマネジメントするエリアを観光庁の認定を受けた「多様な観光地域づくりマネージャー」が中心となって民間主導で官民の連携と合意形成を図っている。また、持続可能な地域を実現するため「合意形成」を重視した行動方針による「多様な地域住民の巻き込み」を事業を通じて図っている。このような取組の下、地域資源の磨き上げや受け入れ環境整備を実施しており、「合意形成」を基本とした取組による関係人口の拡大をも視野に入れた「住んでよし、訪れてよし、住みたいまち」の住民が誇れる豊かな地域の実現を地域一体で目指している。

### 八ヶ岳エリアの特色

八ヶ岳観光圏には、豊かな自然、1000mの標高差が織りなす景観や文化・歴史を活かした資源がある。標高1000mの大地から望む山並みに浮かぶ絶景の富士山や日本3大星空観測地での星空鑑賞。また、日本の名水百選(昭和・平成)が3ヶ所ある名水の里でもある。さらには日本遺産に登録された縄文文化等の“歴史”、多様な美術館もある“文化・芸術”、トレッキングやホースライド等の“アクティビティ”も豊富で、ATに最適なエリアである。



### 地域づくり法人としての取組

#### ▶ 新型コロナウイルス感染防止対策



第三者のチェックが必要やまなしグリーン・ゾーン認証制度

新たなガイドラインを策定するのではなく、自治体等が策定したガイドラインの取組状況の見える化を重視し、観光圏内の商工会を通じて事業者が取組状況等のアンケート調査を実施。官民連携で感染防止に取り組んでいる。また、自治体のガイドラインや感染防止対策の専門家の意見、施設スタッフの健康管理記録簿の参考例等を纏めた感染防止ハンドブックを作成し、ワークショップで内容を解説して配布している。また、地域内の感染取組状況等を発表・共有するオンラインシンポジウムを、観光庁と連携して開催した。

#### ▶ 資源の磨き上げを中心としたコンテンツ造成の取組

令和2年度はwithコロナのため国内誘客を重視し、地域の事業者から「観光庁誘客多角化実証事業」を活用したプログラムを公募した。地域資源をしっかりと取り入れ、コロナ禍にもマッチするプログラムを採択し、「withコロナの八ヶ岳周遊滞在モデル」としてDMOが応募。結果としてモデル事業に選ばれナレッジ集に掲載された。



#### ▶ SDGsの取組



住んでよし・訪れてよし・住みたいまちの実現にはSDGsの取組が必須のことから、17の指標を意識して観光地域づくりに取り組んだ結果、日本版持続可能な観光ガイドラインのロゴマーク使用の許可を日本で最初に受けることができた。

## DMOの取組における優先課題

### ➤ 観光消費単価の伸び悩み

首都圏の近郊であることから宿泊滞在型の来訪客が日帰り来訪客と比較すると少ない

### ➤ 宿泊滞在（宿泊×コンテンツ）パッケージ商品の欠如

地域資源を活かした選りすぐりのコンテンツ（日本遺産「縄文の地」・地元スキー場を活用した展望テラス・大自然を活かした星空鑑賞・地元の酒蔵体験など）は多数存在するが、それらをつなぐルートが確立されていない。

### ➤ インバウンドの伸び悩み

訪日外国人向けの魅力ある観光資源（美術館・レストラン・自然）など多く存在するがゴールデンルートの拠点となっていない。

## 課題解決に向けた取組

### ➤ 観光庁の支援制度を活用した滞在コンテンツ及び周遊滞在ルート造成事業

#### ■ 広域周遊観光促進のための観光地域支援事業

本事業に積極的に取組、滞在コンテンツの磨き上げや造成を行なっている。この支援事業により滞在コンテンツが豊富となったことから、現在、本支援事業で磨き上げたコンテンツを活用して宿泊滞在パッケージ商品に着手し課題解決に取り組んでいる。

#### ■ 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業

八ヶ岳の名水や大地に育まれた食や酒を宿泊滞在につながるコンテンツに磨き上げ、他の国内に誇る豊富な資源とアクティビティと繋ぎ合わせた「八ヶ岳食の女子旅」のモデルルート造成に注力し課題解決に取り組む。



### ➤ 運輸局とDMOが連携した滞在型コンテンツ及びモデルツアー造成事業

#### ■ 「1000mの天空リゾート八ヶ岳」ATモデルツアー造成事業

一人あたりの旅行単価が高いアドベンチャー・トラベルに対応可能なモデルツアーを造成し、観光消費単価の伸び悩みの課題解決を目指す。

#### ■ プロジェクションマッピングと星を活かしたナイトタイムツーリズム造成事業

訪日外国人の宿泊滞在を促進するには、夜間のプログラム充実が不可欠である。そこで、ゴルフ場の夜の空間を活用した縄文をテーマにしたプロジェクションマッピングと星空鑑賞をコラボレーションした滞在プログラムを本事業で造成した。

## DMOからのコメント

重点支援DMOとなることで、観光庁事業の申請等において観光庁と直接意見交換ができる機会が増えました。これまで同様、エリア内における関係者の合意形成を実施しつつ、コロナ後の観光を見据え、観光による地域づくりの為に地域一丸となった取組を引き続き実施していく予定です。

## お問い合わせ先

(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

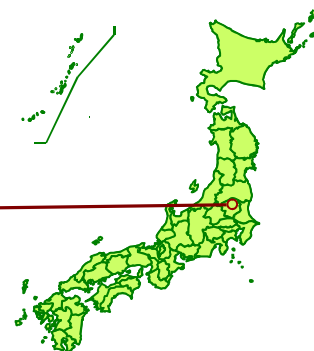
TEL:0551-48-4811

URL:<http://www.kiyosato-okanokouen.com>

# (株) 大田原ツーリズム

## [地域DMO]

マネジメント区域：【栃木県】大田原市



### DMOの特徴

栃木県大田原市をマネジメントエリアとする地域DMO。一部に那須、那須塩原、那珂川町の農村部にも関わっている。農業従事者の減少や高齢化による農業衰退の危機、観光資源の乏しさ及びプロモーション不足により他地域に比べ観光客が少ないという2つの課題を解決するため、農家民泊などのグリーンツーリズムを中心に地域活性化に取り組んでいる。

#### ▶大田原ツーリズムによるワンストップコーディネート&コンシェルジュ

第2種旅行業者を取得している大田原ツーリズムでは、グリーンツーリズム（農家民泊や農業体験など）を希望する団体に対し、事前の調整から当日実施に至るまで全ての行程をコーディネートしている。農家民泊では、教育旅行やアジアを中心としたインバウンドなど団体旅行を中心に受け入れを実施。受け入れ可能農家数も当初の0軒から180軒にまで増加させた。農家民泊を中心とした体験型コンテンツも120以上を造成し、安定した収入をもとに事業を運営している。

#### ▶古民家ホテル 飯塚邸

大田原ツーリズムでは、イタリアのアグリツーリズムなどのような、個人で長期の滞在をともなう、欧州型農村観光を目指している。日本において、農村での長期滞在という新規市場を開発するため、DMOが自ら有形文化財をリノベーションした古民家再生型ホテルを構築し、長期滞在の実証実験を行っている。

200年の歴史がある有形文化財「飯塚家住宅」のリノベーションを行い、古民家ホテル「飯塚邸」をオープン。「宿泊以外の機能は街の中」というイタリアのアルベルゴディフーズという考え方を取り入れ、レストランなど地元商店街にも宿泊者の消費が波及するような仕組みを構築。





## DMOの取組における優先課題

### ▶事業拡大にともなう専門人材の不足

これまで、大田原ツーリズムでは、社長が自ら組織を率いる体制によって事業を行ってきた。昨今、農家民泊の受け入れ可能農家数の増加や古民家ホテルへの参入など、支援内容が拡大している。それに伴い、組織の規模が大きくなっているため、組織的なマネジメント能力を有する人材が不足していた。

### ▶古民家ホテルが存在する地域の知名度不足

飯塚邸は、開業以来、多くの方に利用されている。しかし、古民家ホテルはとて高く評価されているものの、エリアとしては観光地としての知名度は弱く、集客力に欠けるため、エリアとしての知名度向上、そして、コンテンツ開発が必要であった。

## 課題解決に向けた取組

### ▶観光庁の支援制度を活用した人材登用

「世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業」を活用し、農泊の知見を有する旅行会社の役員経験者と農泊・宿泊・観光について地域におけるコンサルティングの経験者の計2名の外部専門人材を登用した。それぞれ、常勤としての雇用となるため、組織体制の強化につながった。

### ▶観光庁の支援制度を活用した古民家ホテルを中心とした地域のブランディング

「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業」を活用し、地域の名物となるような日本の中でも有数な路面を活用した光のアートのイベント「光のイベント」を実行した。過去にも集客したことがない過疎集落に一夜で3000人も集めることができ、大きく知名度を向上するイベントとなった。また、地方では珍しいMICEの集客をターゲットとしたユニークベニューに取組、美術館や古民家を活用した地方らしいコンテンツを構築できた。

## DMOからのコメント

第3セクターにも関わらず自立経営をしていたため、また、日々の業務に追われて、活用したくても観光庁の支援制度を活用できなかった。今回、重点支援DMOになり、担当が付き伴走してくださることで、課題解決に向けた多様な支援制度の紹介、事業のサポート、情報提供など幅広い支援をしていただき成果を納め、大変感謝しております。DMOにとっては常時欲しい制度です。

## お問い合わせ先

(株) 大田原ツーリズム

TEL:0287-47-6759

URL:<http://www.ohataragt.co.jp/>



# (一社) 豊岡観光イノベーション

## [地域連携DMO]

マネジメント区域：【兵庫県】豊岡市 【京都府】京丹後市



### DMOの特徴

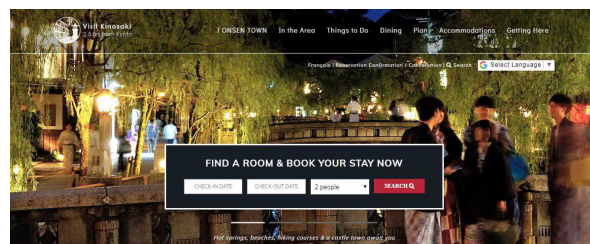
▶豊岡市と京丹後市エリアを中心に地元の民間事業者と一体となり、地域の素材を国内のみならず世界のマーケットに流通させる仕組みを構築し、インバウンドの誘客に向けた観光地整備に積極的に取り組んでいる。

#### ▶データマーケティング

豊岡市内における無料Wi-Fiの設置、飲食マップ・メニューの多言語化等の受入環境整備を行うとともに、Wi-Fiの利用データから、観光客の属性や行動ルートを把握・分析。

#### ▶海外プロモーション

自社で運営する外国人宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」を活用したマーケティングに取組、認知拡大、予約獲得に取り組む。メインターゲットは欧米豪。



海外旅行者向けWEBサイト「Visit Kinosaki」  
地域のきめ細かい観光情報を発信

#### ▶着地整備の取組

城崎温泉発の着地型ツアーの造成や滞在中の過ごし方を発信し、温泉、自然、文化（生活・工芸）の体験ができる地域としてのブランディングを進めるほか、城崎温泉以外の周辺地域におけるコンテンツ造成に取り組む。



自然や文化体験を中心とした  
着地型ツアーを造成

#### ▶マネジメント及び関係者の主体的な参画

会員である事業者と戦略を共有し、事業を展開。また、行政、交通事業者、金融機関等の実務者が集まる定例会議や経営戦略会議（理事会）を開催し、事業計画立案と進捗状況の確認、事業の改善を実施。

ワーキンググループとして、Visit Kinosaki 戦略会議、WEB マーケティング会議をそれぞれ週1回開催し、KPIの達成状況の確認と施策の改善、新たな施策の検討を進めている。また市内観光協会との受入整備にかかる会議を月1回開催。さらに豊岡市内6つの観光協会の連絡調整会議である豊岡ツーリズム協議会に参加し、連携を図る。

## DMOの取組における優先課題

### ▶城崎温泉から周辺地域への誘客

周辺エリアへの誘客のため、コンテンツの磨き上げとともに、魅力的なツアー商品造成が必要となっている。

### ▶コロナ禍における新たなニーズへの対応

国内旅行者向けコンテンツの拡充や密にならずに過ごせるオプションツアー等、新たな旅行のニーズを満たすコンテンツの造成などが必要。

### ▶デジタルマーケティングの推進

「Visit Kinosaki」にて宿泊状況を把握している一方、国内旅行予約サイト等からの予約状況について一元的かつリアルタイムに把握するシステム構築が必要。

## 課題解決に向けた取組

### ▶城崎温泉から周辺地域への誘客

観光庁令和2年度「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」において神鍋高原スキー場の夏期の利活用を進めたほか、令和3年度「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」において、演劇列車のツアー商品化による周辺地域への誘客につながる事業に取り組む。

### ▶コロナ禍における新たなニーズへの対応

- マイクロツーリズムの造成を実施（「ふらっとリトリートTOYOOKA」）。
- 安全安心な旅の提供のため、保健所等の監修のもと、感染症対策ガイドラインを策定。
- 観光施設等、宿泊施設等を対象にした感染症対策認証制度を展開（「CLEAN and SAFE TOYOOKA」）。事業者から提出された「三密対応」「換気の徹底」等の項目チェックシートを確認し、全ての項目を満たしていればロゴ入りの認証ポスターを交付。事業者はポスターやロゴを活用して安全性をPR。



感染症対策認証制度のロゴ。

### ▶デジタルマーケティングの推進

地域のIT事業者と連携し、城崎エリアにおける宿泊予約状況をリアルタイムで把握できるようなシステムの検討を進めている。

## DMOからのコメント

重点支援DMO選定後、観光庁のご担当者様から、適時補助金等メニューの情報を共有いただき、申請時のアドバイス等もいただくことができ、大変助かりました。また選定いただいたことにより、同じ重点支援DMOの（一社）京都府北部地域連携都市圏振興社様、（一社）麒麟のまち観光局様との繋がりを持つことができ、定期的なミーティングを実施し、連携施策の推進を図っています。

## お問い合わせ先

（一社）豊岡観光イノベーション

TEL:0796-21-9002

URL:<https://www.corp.toyooka-tourism.com>

## (公社) 京都市観光協会 [地域DMO]

マネジメント区域：【京都府】京都市



### DMOの特徴

約1,500社の会員からなる業界団体として、設立から60年以上にわたり、閑散期対策を中心とした文化・伝統を活かした観光誘致の企画、観光案内等の事業を展開。DMO登録を機に、研修・セミナーの開催やデータ分析・統計発表を通じた経営支援にも幅を広げ、京都における観光政策推進の中核的な役割を担う。

#### ▶文化・伝統を活かした誘客キャンペーンの開催

- 50年以上にわたりJR各社と連携したキャンペーン「京の冬の旅」「京の夏の旅」を毎年開催し、文化財特別公開を中心とした閑散期向け旅行商品を開発。また、小規模イベント主催者向けに事前予約システムを提供し、安心・安全な観光体験に関する情報のとりまとめを行う。
- 三大祭における観覧席の販売や、地域事業者が生産する土産物を中心に取扱う二条城売店の運営を行い、収益の一部を文化財や担い手の活動の支援に充てることで、持続可能な観光地経営に繋げる。

#### ▶海外プロモーション

- 公式サイト「Kyoto City Official TravelGuide」等において、文化・伝統への理解度の高い外国人観光客をターゲットにした情報発信を行う。
- 「京都市海外情報拠点」を活用することで、海外メディアからの取材機会の創出、映像素材の提供、商談会への出展など、双方向の情報流通を促進。

#### ▶受け入れ環境整備の推進

- 京都市認定通訳ガイド制度を運営し、200名以上の質の高いガイドを育成し、活躍の場の創出に取り組むことで、観光客の体験価値の向上を図る。
- 事業者向けには、免税相談窓口の開設や多言語コールセンターの運用、クレジットカード利用キャンペーンの開催など、キャッシュレス決済普及による生産性向上を支援。
- 従業員向けの伝統文化体験などの研修を開催したり、セミナー動画の配信を行い、人材育成の支援も行う。

#### ▶データ分析による市場の可視化

- 市内主要宿泊施設からの協力を得て、毎月の宿泊客数等のデータを統計化して発表するなど、京都観光の市場の速報・可視化を行うことで、事業者の経営判断を支援するとともに、新たな投資を呼び込む。



## DMOの取組における優先課題

### ▶安心・安全な観光の実現

感染症対策や防災計画などを強化し、コロナ禍からの力強い回復を目指す。

### ▶観光関連事業者における京都観光行動基準の普及

過去の問題を再発させないために、持続可能な観光にふさわしい経営を促す。

### ▶観光事業者や担い手の支援を通じた観光業界の魅力向上

人材支援の取組を強化し、誇りを持って働くことができる業界にする。

### ▶デジタル技術やデータの利活用によるDXの推進

事業者におけるDXを支援し、生産性の向上や観光客の利便性向上を目指す。

## 課題解決に向けた取組

### ▶市民生活と調和した持続可能な観光振興の手法開発

- 「京都観光行動基準」を策定し、観光客、事業者・従事者、市民に向けて持続可能な観光に繋がる行動の啓発を行う。
- 「とっておきの京都プロジェクト」として需要分散化対象エリア（伏見、大原、高雄、京北、西京、山科）の観光魅力の発掘・発信を行う。
- 市内主要観光地における観光快適度の予測データの公開、ライブカメラ映像の配信を行うことで、観光客の行動変容を促す。

### ▶新型コロナウイルス感染症対応

- 京都市と連携して事業者向けの助成金制度を創設し、年間約6,000件を交付。
- 業界向けの研修、セミナーをオンライン動画でも配信し、テレワーク中でも利用しやすい能力開発の機会を提供。
- 京都で観光に携わる23の業界団体と共に対策ガイドラインを作成し、これに対応する店舗・施設等2万件にステッカーを配布して対策を可視化。
- 外出自粛中のコンテンツとして、自宅でも京都を感じることができる体験・料理動画の配信や、旅行計画を後押しする抽選キャンペーンを開催。
- 地元民による消費喚起キャンペーンを開催し、延べ約7万人総額4.2億円の消費を促進するとともに、身近な観光を体験する機会を提供。また、OTAや旅行メディアと連携した情報発信等を通じて需要の底上げを図った。
- 3カ月先までの客室稼働率の予測やインターネット上での京都訪問意向を表す「行こう指数」を開発し、先行き不透明な業界の経営判断を支援。

## DMOからのコメント

コロナ禍の影響で、当初予定されていた現地派遣はリモートでの打合せとなり、想定していたほど情報共有を十分に図れなかったという課題はあったものの、DMOシンポジウムでの事例紹介の機会をいただいたり、補助事業申請にかかる諸々の調整をいただくなど、ご支援をいただきました。

## お問い合わせ先

(公社) 京都市観光協会 (DMO KYOTO)

TEL:075-213-1717

URL:<https://www.kyokanko.or.jp>

## (一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社 (通称：海の京都DMO)

### [地域連携DMO]

マネジメント区域：【京都府】福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町



### DMOの特徴

▶平成28年、京都府、北部7市町では、地域一体となった観光地域づくりを進めるため、市町観光協会を水平統合した強固な連携組織である(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO)を設立、地域のプロモーション、観光地域づくり等を行う。「天橋立」や「山陰海岸ジオパーク」といった数多くの観光資源が点在、「海の京都」をコンセプトに、滞在交流型観光に力を入れる。平成26年に観光圏に認定。

#### ▶インバウンド誘客の推進

- バス停等の周遊交通の英語表記や観光船アナウンスの多言語化、体験型ツアー商品の造成、多言語ガイド育成などの着地整備を実施。
- クルーズ船客に向け着地型旅行商品の造成を実施。
- 現地旅行会社へのセールスコールやファミトリップを実施。
- 体験プログラムのバーチャル体験を取り入れたオンライン商談会を実施。



天橋立



山陰海岸ジオパーク(立岩)

#### ▶豊かな食を活用した体験プログラムの造成

「SAVOR JAPAN」認定地域の豊かな食を活用したガストロノミーツーリズム、農泊食文化海外発信事業・英語ガイドによる農泊、食文化体験プログラムの商品化等を積極的に取り入れている(「食」関係支援事業(特産品40商品販売))。

#### ▶海外プロモーション

インバウンドに向けた旅行商品の発信と販売については、ホームページ英語版のほか、海外サイト「Voyagin」に掲載するとともに、国内外の旅行博や商談会、セールスコールなどで積極的に商品提案。

#### ▶サービス品質向上の取組

宿泊施設等を対象としたおもてなし研修会の実施、サービス品質保証制度(サクラクオリティ)の導入、インバウンド対応できるガイドの育成などに取組み、エリア全体の受入サービスの向上を推進。観光ガイド育成事業(インバウンドローカルガイド養成講座、ガイド団体代表者会議等)を実施し、地域コンシェルジュを育成。

## DMOの取組における優先課題

### ▶観光資源の磨き上げ

訪日外国人観光客の誘客を促進するため、「山陰海岸ジオパーク」や国立公園「山陰海岸国立公園」、国定公園「丹後天橋立大江山国定公園」、日本三景「天橋立」、重伝建地区「伊根町伊根浦の舟屋群」などの観光資源を活かし、広域周遊旅行商品や地域の歴史や人々の生活に触れる着地型旅行商品、体験プログラムを造成、引き続きブランディングとともに、さらなる着地整備を図る必要。「日本遺産」の丹後ちりめんなどを活用した産業観光の推進についても同様。

### ▶広域的な事業連携による誘客促進

海の京都DMOのエリアを含めた北関西（日本海側エリア）一帯での周遊ルートを展開し、延泊や立ち寄りの機会を推進する。

### ▶受入れ環境整備の推進

インバウンド受入れ対応などについて、引き続き各種取組を図る。

## 課題解決に向けた取組

### ▶新たなコンテンツ造成の取組

着地型体験コンテンツを取り入れたクルーズ船客向け周遊オプションツアーを企画・実施。ナイトコンテンツの造成（夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業）を推進（「天橋立ビーチBAR」「ナイトクルーズ」等）。ラグジュアリートラベルを積極的に招聘し、高付加価値旅行商品の造成と受入施設でのサービス水準の向上を図る。

### ▶広域的な事業連携による付加価値の高い周遊商品造成

令和2年度、北関西（日本海側エリア）の広域的な連携を推進するため、海の京都DMO・豊岡DMO・若狭湾観光連盟の3団体で協定を締結。令和3年度広域周遊事業における民間事業者と共同でレンタカーを活用した付加価値の高い周遊商品造成を実施予定。

### ▶受入れ環境整備

観光案内所、公共交通機関等の外国語対応能力の向上のための研修やカード決済の普及促進、免税店の拡大、インバウンドローカルガイド育成等による多言語化等外国人の受入環境整備を加速化させる。

## DMOからのコメント

コロナ禍の中、インバウンド事業を計画通り進めることが難しい1年でしたが、重点支援DMO選定により、観光庁との連携がより一層深まり、情報交換をはじめ有用な助言・指導を受けることができ、取組を進めることができました。

## お問い合わせ先

京都府北部地域連携都市圏振興社

TEL:0772-68-5055

URL:<https://www.uminokyoito.jp/>



## (一社) 京都山城地域振興社 (お茶の京都DMO) [地域連携DMO]

マネジメント区域：【京都府】宇治市、城陽市、八幡市、  
京田辺市、木津川市、久御山町、和束町、  
精華町、南山城村



### DMOの特徴

▶ 「日本茶のふるさと お茶の京都」をテーマに、各地域の観光地域づくりや宇治茶のプレミアムブランド化、農産物等の特産品のブランド化などの取組を一体的に展開し、地域の稼ぐ力を創出する地域商社的なDMO。

#### ▶ 地域の目指す方向性

「日本茶のふるさと お茶の京都」～世界一の緑茶が味わえる地～

① 地域の様々な人とともに、お茶を中心テーマとしながら、地域の魅力的な資源をより磨きあげ、効果的なプロモーションを展開。

② 地域の人々が地域に誇りと愛着をもって、地域の活性化に向けた取組が行われ、内外に多様な手段で情報発信。

③ 国内外の観光客が地域の人々と交流することを通して、  
定住や移住希望者が増加。地域に新たな産業や雇用を創出。



体験農園 (メディア及び旅行会社ファーム)

#### ▶ 観光地域づくりの体制

事務局に、行政、旅行会社、専門の人材 (地域づくり・マーケティング・商品開発等) を配置し、DMOが中心となった観光地域づくりの体制を構築。

また、地域がDMOと情報共有・連携して観光地域づくりを推進するため、京都府・市町村で構成する「お茶の京都DMO府・市町村実務者会議」を設置。

#### ▶ 地域の担い手育成

地域住民や事業者、地元ガイド団体等幅広い層を対象としたセミナーや研修等を実施 (通訳案内士養成等)。

「お茶の京都」ブランドを広く浸透させるため、地域の子どもの対象に、日本郵便株式会社と連携し教育年賀事業を実施。公立小学校の約8,500人の児童を対象に、授業で先生からお茶の京都の概要やDMOの活動について説明。

#### ▶ 受け入れ環境整備の推進

2次交通の拡充のため、観光周遊カーシェアリング事業のほか、域内のループバス (宇治市周辺、木津川市周辺) を期間限定で実施。

また、災害等の非常時の安全・安心対策のため、外国人旅行者向け災害情報提供アプリ「Safety tips」による情報提供を実施。

## DMOの取組における優先課題

### ▶新たなコンテンツの磨き上げ

お茶体験施設、農家レストラン（伝統食文化）、農家民宿、地域の祭りや風習・伝統行事などの地域資源を活用した着地型旅行商品の造成が必要となっている。モデルコースはあるが商品化までには至っていないものもあるため、多様な地域資源を、ストーリー性をもって商品開発につなげていくことが課題。特に、戦略上、重要な拠点である木津川エリアや石清水八幡宮等エリアについて認知度を高め、誘客を図ることとしている。

### ▶海外プロモーション

海外向け情報発信については、これまで、SAVOR JAPANサイトによる海外発信認知度を高める活動、アジアにおける現地エージェントセールス、VISIT JAPAN TRAVEL & MICE MARTによるプロモーションを実施。一元的に情報発信を行うため、JNTOと連携した取組を実施する必要がある。

## 課題解決に向けた取組

### ▶誘客多角化事業によるコンテンツ造成

新たなコンテンツ造成に関して、下記の事業を検討・実施。

- 令和2年度誘客多角化事業（2次）（「【京都府八幡市】国宝・石清水八幡宮“新しい生活様式”における祈りのともしび参拝事業」）。
- 地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業を検討中（「伝説の茶農家・茶商によるプレミアム大茶会」）。
- インフラツーリズムの推進  
天ヶ瀬ダム旅行商品を造成。ダムツアー等を継続して実施。

### ▶プロモーションの推進とJNTOとの連携

令和2年度からJNTOの賛助団体に加入。海外向け情報発信については、JNTOからアドバイスを受け、地域の取材記事、画像、動画について、JNTOのサイトから発信。

## DMOからのコメント

重点支援DMOに選ばれたことにより、観光庁との意見交換や貴重なアドバイス等をいただき、コロナ禍の厳しい中で、これまでに経験のない事業展開を図ることができました。令和3年度はこれらの経験を踏まえ、観光を入り口として、宇治茶の更なるブランド化や地域文化を生かした取組などを通じ、地域の振興やまちづくりに寄与する取組に進化していきたい。

## お問い合わせ先

（一社）京都山城地域振興社  
（お茶の京都DMO）

TEL:0774-25-3239  
URL:<https://ochanokyoto.jp/>

# 公益社団法人ひょうご観光本部

## 【地域連携DMO】

マネジメント区域：兵庫県



### DMOの特徴

#### ▶地域の目指す方向性

「世界に選ばれるデスティネーション兵庫」を実現するため、「ひょうごツーリズム戦略（2020～2022年度）」を令和2年2月に策定。マーケティング機能を強化するとともに、国内外からの誘客促進に向け、県内各地の地域資源を活かした体験型・滞在型コンテンツの開発、広域連携DMO等と連携した認知度の向上、ゴルフやサイクルなどスポーツツーリズムの推進、航空・鉄道・バス等交通事業者と連携したプロモーション等を展開する。

#### ▶各関係者と連携した観光地域づくりの体制

- 「ひょうごツーリズム戦略推進会議」  
学識経験者等も交え、観光戦略の策定・見直し・進行管理を実施。
- 総会・理事会  
行政、観光協会、宿泊・交通・旅行事業者等の幅広い関係者が観光本部の全体的な運営（事業計画、予算・決算等）について協議。
- 兵庫県外客誘致促進委員会  
インバウンドに取り組む市町、他DMO、観光協会、宿泊・交通事業者、金融機関等とともに、インバウンド対策について検討。

#### ▶他DMOとの事業連携の取組

- 関西観光本部：広域周遊ルートの開発・発信、動画を活用したプロモーション
- 麒麟のまち観光局：新温泉町湯村温泉や諸寄（日本遺産北前船寄港地）における観光コンテンツ開発、鳥取地域との広域周遊ルートの開発・発信
- 豊岡観光イノベーション：スノーや温泉等を活用した体験型コンテンツの開発
- せとうち観光推進機構：瀬戸内海東地域の欧米向けコンテンツ開発
- 神戸観光局：瀬戸内海国立公園六甲山ツーリズムの推進
- 淡路島観光協会：「国生み」や「食」等地域資源を活かしたコンテンツ及びツアーの開発
- 姫路観光コンベンションビューロー：姫路城早朝特別観覧付き旅行商品の造成

#### ▶国際競争力の高いスノーリゾート形成に向けた取組

神鍋高原地区を含む県北西部全域でインバウンド誘客を目的として、スキー場、宿泊施設、観光施設等と連携した体験型・滞在型コンテンツを開発。また、県と連携したスキー場の設備改修支援や宿泊割引支援等に取り組む。



## DMOの取組における優先課題

### ▶新たなコンテンツ造成

県内周遊の促進を目的として、地域資源を活かした個性豊かな体験型・滞在型コンテンツの掘り起こし、磨き上げる等の着地整備が必要。

### ▶海外プロモーション

海外向け情報発信を一元的に行うため、JNTOと連携した取組を図る。

### ▶専門人材の知見やネットワークの活用

DMOの戦略的施策立案、体験型・滞在型コンテンツの磨き上げ、着地型観光を担うガイドの育成に加え、新たな観光市場の創造を目的として、観光分野における知見及びネットワーク豊かな専門人材を活用する。

## 課題解決に向けた取組

### ▶令和3年度広域周遊事業

新たなコンテンツ造成に関して、下記の事業を実施。

- ウィズコロナ、ポストコロナを見据え、コト・イミ消費を喚起する体験型・滞在型コンテンツの開発
- OTA及び旅行エージェントと連携した国内外に向けたコンテンツの販売
- WMG2021等を契機としたゴルフツーリズムの展開
- 国内外の旅行者に地域のストーリーや魅力を伝えるガイドの育成

### ▶JNTOとの連携

海外向け情報発信については、令和2年度からJNTOから地域の取材記事、画像、動画についてアドバイスを受ける。

### ▶専門人材の登用

令和3年度から、体験型・滞在型コンテンツの開発、流通販売、ガイド育成等に関わる専門人材など2名を登用。

### ▶売れる商品・サービス支援

インバウンド向け環境整備やユニバーサルツーリズムの推進を目的としたテクノロジーの活用

## DMOからのコメント

内外からの誘客に向けた体験型・滞在型コンテンツの開発やガイド育成に取り組んでいます。今年度は、マーケティング等の専門人材も加えた体制で、兵庫五国の観光資源の磨き上げに一層注力します。JNTOと連携し、インバウンド回復期に備えた海外プロモーションも展開します。

## お問い合わせ先

公益社団法人ひょうご観光本部

TEL:078-361-7661

URL:<https://www.hyogo-tourism.jp>

# (一社) 田辺市熊野ツーリズムビューロー

## [地域DMO]

マネジメント区域：【和歌山県】田辺市



### DMOの特徴

持続可能な観光地を目指し、外国人目線を活用して情報発信や受入環境の整備を図り、主に欧米豪のF I Tをターゲットに誘客に取り組む。2010年には法人格を取得し着地型旅行業「熊野トラベル」を開業。外国人旅行者と地域を繋ぐ中間支援組織としての機能を発揮し、地域と連携した滞在プログラムを企画・販売し観光による地域づくりを展開。

#### 【主な取組】

##### ○外国人目線を活用したインバウンド戦略

「外国人を呼び込むには外国人の感性が必要」との考え方から、設立と同時に英語圏のネイティブなスタッフを採用。表記の統一や多言語による情報発信、看板整備、地域文化の紹介をするガイドブック等の作成に取り組む。



##### ○観光基本スタンスを地域と共有

世界遺産登録直後のマス観光の苦い経験を経て、地域で議論を重ね、次の4点を観光の基本スタンスとした。

- ①「ブーム」より「ルーツ」
- ②「乱開発」より「保全・保存」
- ③「マス」より「個人」
- ④「インパクト」を求めず「ローインパクト」

##### ○巡礼文化の世界発信

互いに世界遺産登録されているスペイン国「サンティアゴゴ巡礼道」と「熊野古道」で「共同プロモーション協定」を締結し、世界に向けて情報発信。2015年からは、両方の道歩くプロジェクト「共通巡礼手帳」（世界的スタンプラリー）を開始。



##### ○着地型旅行業の開始

2010年着地型旅行業をスタート。世界中から熊野にきたい個人旅行者に対応するため、WEBで予約・決済・キャンセルが出来る予約サイト「熊野トラベル」を立ち上げた。



## DMOの取組における優先課題

- ▶外国人旅行者を地域で受け入れるにあたり不安の声が上がったコミュニケーションの取り方など
- ▶世界遺産「熊野古道」の認知度は海外ではほとんどなかった
- ▶「熊野古道」が世界に認知されるようになってきたが、旅行者を地域に運び込む仕組みを持ち合わせていなかった
- ▶地域固有の文化、自然等を活用した新たな体験プログラムの創設
- ▶DMO連携による広域周遊観光の展開及びDMOの人材育成
- ▶インバウンド需要が回復するまでは、国内向けプロモーションにも力を入れる方針



## 課題解決に向けた取組

- ▶地域の関係者によるワークショップを開催  
宿泊施設、交通事業者、観光案内所、観光協会、市役所、神社等の関係者を対象。英語が話せなくても意思疎通ができるコミュニケーションツールを作成
- ▶同じ世界遺産の道である「サンティアゴ巡礼道」との共同プロモーションを開始（2008年）。その後、2015年から両方の道を歩くプロジェクト「共通巡礼手帳」を開始してから欧州を中心に認知度が上がった。
- ▶着地型旅行業を開始（2010年）  
世界中からの個人旅行者に対応するためWEBで予約・決済・キャンセルができる予約サイトを構築
- ▶観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業を活用し、体験プログラムを創設した
- ▶観光庁の支援を受け、重点支援DMO実地研修を当地で開催し、持続可能な観光地経営を志す全国の参加者と連携を深めるとともに、人材育成の研修プログラムとして今後の事業展開につなげる
- ▶国内需要を取り込むため、「低山トラベラー」をターゲットとしたプロモーション及びコンテンツ開発に取り組むほか、「熊野古道女子部」と連携したプロモーションも引き続き行う

## DMOからのコメント

重点支援DMO実地研修を本年3月、田辺市で開催させていただき、全国から8団体、17名が受講された。日頃、DMO間の連携は取れていなく、課題や目指すべき方向性を共有することの大切さを実感した。

ウイズコロナ、アフターコロナの中でも、地域ともに生き残るためにも情報共有は必要である。

## お問い合わせ先

(一社) 田辺市熊野ツーリズムビューロー

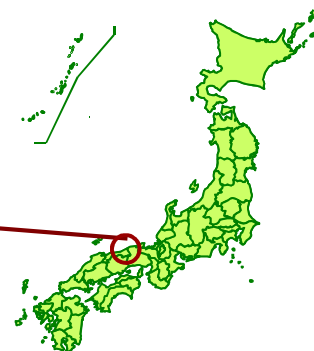
TEL:0739-26-9025

URL:<https://www.tb-kumano.jp>

# (一社) 麒麟のまち観光局

## [地域連携DMO]

マネジメント区域：【鳥取県】鳥取市、岩美町、智頭町、若桜町、八頭町 【兵庫県】新温泉町、香美町



### DMOの特徴

#### ▶生活圏・経済圏・文化圏が一致した地域

(一社) 麒麟のまち観光局は、鳥取県と兵庫県にまたがるマネジメントエリアで「観光地域づくり」を推進。鳥取県東部（鳥取市・岩美町・智頭町・若桜町・八頭町）と兵庫県北西部（新温泉町・香美町）は歴史的なつながりが深く、生活圏、経済圏、文化圏が同一である。自治体の「連携中枢都市圏」も麒麟のまちエリアと一致（2020年3月）している。2018年1月のDMO設立後、「つなぐ・つくる・つづく」を地域のメインコンセプトに、「麒麟のまち」（商標登録済み）のインナーブランディングを強力に推進。あらゆる場面において「麒麟のまち」の名称・ロゴを官民間問わず使用し、地域の一体感が醸成。まちの中の施設や看板、広告など、多くの場面で「麒麟のまち」を使用。

#### ▶日本遺産「麒麟のまち」

「麒麟のまち」の由来となっている「麒麟獅子舞（国指定重要無形民俗文化財）」が伝承されているエリア全体で、31の文化財から成るストーリーが2019年日本遺産に認定。日本遺産「麒麟のまち」推進協議会事務局はDMO内に設置し文化財を活用した事業を推進。



(麒麟獅子舞)

#### ▶農泊地域「麒麟のまち」

「麒麟のまち」エリア全体で農泊を推進。2019年には「SAVOR JAPAN（農泊・食文化 海外発信地域）」に認定され、地域の伝統食、食材をDMOが中心となって国内外へPR。

#### ▶観光地経営

DMO麒麟のまち観光局のトップ人材は経営感覚に優れた地方銀行のトップ人材が務める。また、地方銀行からの出向者がマーケティングに携わる。また、主要メンバー（理事・事務局）も民間でほとんどを占め、観光地経営を民間主導で行い、自治体がサポートする体制を確立。

#### ▶幅広い会員

DMO麒麟のまち観光局の会員数は産官学金言の各分野から300社・団体を超える。そのうち経営に関わる理事団体は、金融機関、宿泊施設、交通機関、観光協会、経済団体。

#### ▶収益事業

DMO麒麟のまち観光局は、旅行業をはじめ各種コンサルティング、通訳機などの販売業務、広告代理業務など、幅広い収益事業を展開。設立時は赤字決算であったが、2年目以降は黒字決算となっている。



## DMOの取組における優先課題

### ▶圏域のマネジメント強化

各町の特徴を生かしつつ、商店街スタイル（それぞれのまちの違いを売りにした多彩な表情を持つ観光圏）として総合力を高める。各町・各観光協会はコンテンツの磨き上げと開発、データベース構築を行い、情報発信に関しては圏域全体での行う役割分担を推進。

### ▶人材の育成

観光コンテンツの発掘と同時に、継続的なオペレーションのため人材育成が不可欠。DMOが中心となって、プレイヤー人材の育成を推進する。

### ▶流通販売環境整備

観光コンテンツは、販売し、お客様との接点を多数持つことで、より磨き上がり継続性を持つ。DMOが流通の共通基盤（プラットフォーム）作りを推進する。

### ▶連携の強化

広域連携DMOである、「山陰インバウンド機構」「関西観光本部」との連携。周辺の地域連携DMOとの連携を通じて、単独のDMOではなし得ない、コンテンツ整備+受入れ環境整備+流通販売環境整備の一体化を目指す。

## 課題解決に向けた取組

### ▶圏域マネジメント強化に向けた取組

観光販売戦略の作成と提言。観光協会のHPのリニューアルによる情報発信機能の受託。

### ▶人材育成の取組

令和2年度広域周遊促進事業「山林アクティビティ造成事業」により、圏域のアウトドア事業者の育成を実施。今後、海の事業者と山の事業者のスキルやホスピタリティーの共通化を推進し、人材の効率化やレベルアップを目指す。

### ▶流通販売環境整備の取組

アクティビティ素材の販売プラットフォームである「アソビュー」を圏域に広げた。今後は国の支援事業を活用し、インバウンド向け素材の共通販売プラットフォーム化を目指す。R2年度「誘客多角化事業」を活用し、鳥取砂丘での新たなコンテンツ（夜間）「星取スターナイトプロジェクト」を実施。

### ▶連携の強化の取組

広域DMO「関西観光本部」との連携による「プラスワントリップ」の推進。海の京都DMO、豊岡イノベーションDMO双方と連携による山陰海岸ジオパークエリアのモデルコース作りや共同プロモーションを検討中。

## DMOからのコメント

重点支援DMOとして認定を受けて以降、国の施策や支援事業の各種情報を共有いただくことにより、麒麟のまち観光局として「やりたいこと」「やるべきこと」を形にすることができる。コロナ禍においてゼロベースで戦略を見直し、新たな観光販売戦略の策定などに積極的に取り組んでいる。

## お問い合わせ先

（一社）麒麟のまち観光局

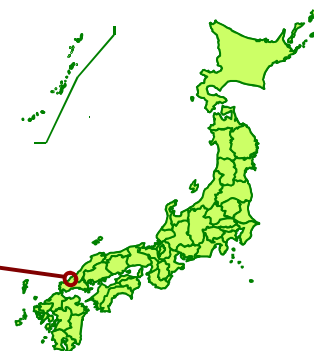
TEL:0857-50-1785

URL:<https://www.kirinnomachi.jp/jp/>

# (一社) 萩市観光協会

## [地域DMO]

マネジメント区域：【山口県】萩市



### DMOの特徴

山口県萩市をマネジメントエリアとする地域DMO。

「萩城下町」や「松下村塾」などの世界遺産（明治日本の産業革命遺産）をはじめとする歴史的文化遺産や、城下町のすぐそばに海や山があるなど、自然環境にも恵まれている。地域特有の地域資源を活かした取組や各層DMOとの連携など、バランスの良いDMO。戦略的ターゲットの欧米豪に対しては、せとうちDMO（広域連携DMO）やJNTOと連携し、アジア市場に対しては、山口県観光連盟（地域連携DMO）と連携して、インバウンド誘客を推進。

#### ▶体験プログラム造成支援による多様な関係者の参画

コロナ収束後に向けた取組として、山口県のコンテンツ造成補助金（3/4補助）に対応する形で、萩市と連携して補助金（1/4補助）を用意。これにより事業者は、実質費用負担なしでプログラム造成に取り組むことができ、これまで観光産業に関わりの少なかった多様な分野の事業者が観光分野に関わる事に繋がっている。



##### ▲レンタルバイク

バイク販売事業者が補助金を活用して造成した、原付バイクのレンタル事業。周辺の飲食店等と連携し、このバイクで来店すると特典が受けられるようにすることで、エリア内の周遊性を高めている。狭い道の多い城下町などにも便利な交通手段に。



▲着物で人力車 & 文化財施設で抹茶が楽しめる体験上記サービスを提供していた3事業者が連携して開発し、新たに体験商品として提供を始めたサービス。キャッシュレス機器や翻訳機械、座椅子の導入など、インバウンド対応も進めている。



#### ▶広域連携DMOとの連携

海外へのプロモーションは、単独では発信力が弱いため、ターゲットを同じとするせとうちDMO（広域連携DMO）と連携。

具体的には、萩のコンテンツをせとうちDMOへ、日々情報共有するとともに、FAMツアー等への参加を通じて、商品化を行っている。マネジメントエリアの広い広域連携DMOは、エリア内の情報をタイムリーかつ詳細に把握する事が困難なため、地域DMO側から広域連携DMOへ情報提供する体制ができています。

また、日常的に情報交換することで、DMO間の信頼関係の構築（特に現場スタッフレベル）にもつながっている。



▲せとうちDMO  
FAMツアーの様子

## DMOの取組における優先課題

### ▶多言語解説看板の整備

観光スポットに設置されている多言語解説看板の整備率は高いものの、日本語からの直訳が多く、外国人目線での整備とはなっていない。また、案内板の老朽化も激しい状況。（一方、道路案内標識の多言語化は、平成27年の世界遺産登録に合わせて、全面整備している。）

### ▶ガイドをはじめとしたインバウンド対応力の強化

ガイドや案内スタッフ等のインバウンド対応能力は不十分であるため、コロナ禍終息後、インバウンド需要拡大時の反転攻勢に向けた準備が必要である。

### ▶重要伝統的建造物保存地区の観光活用

地域内には4つの重伝建地区があり、これまでまちなみの保全を中心に取り組んでいたが、今後は、保全だけでなく観光交流による地域の賑わい創出を目指している。

## 課題解決に向けた取組

### ▶観光庁の支援制度を活用した受入環境整備

外国人目線で多言語解説文の作成を行う観光庁の支援制度「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用して、解説文のソフト面の整備をするとともに、観光庁の支援制度「観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業」を活用し、萩城下町の多言語解説看板やWi-Fi環境のハード整備を実施。国の支援制度を活用しながら、受入環境整備を進める。

### ▶観光関係事業者や案内スタッフの育成

定例的に行っているガイド研修に加えて、観光庁「広域周遊観光促進のための専門家派遣事業」を活用した案内所スタッフ向け講習会の実施や、観光関係事業者を対象に、全国通訳案内士による実践的な研修（観光庁「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」）を実施するなど、インバウンド対応スキルの向上を図っている。

### ▶重要伝統的建造物保存地区の再建

これまで観光活用ができていなかった重伝建地区だが、Iターンの若者が古民家を改修して宿泊施設を開業する等、活用ムードが出てきている。行政も、住宅局の支援制度「空き家対策総合支援事業」を活用し、「浜崎地区」の空き家の活用に着手。



▲蔵を改修したホテル  
令和2年12月にオープン

## DMOからのコメント

重点支援DMOに選定され、観光庁の担当者が付くことによって、コミュニケーションがスムーズになりました。現地の現状・戦略・課題をよく理解され、選定後には早速、職員が現地視察に來られました。良い事例は早速全国にシェアいただき、今後の動向や他地域の参考事例などを踏まえ、実態に適した的確なアドバイスをいただきました。

## お問い合わせ先

(一社) 萩市観光協会

TEL:0838-25-1750

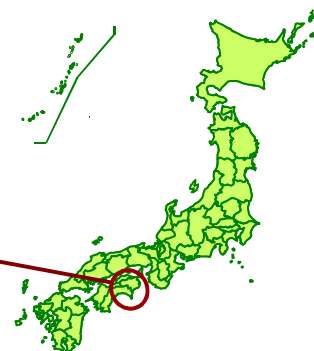
URL:<https://www.hagishi.com/>



## (一社) そらの郷

### [地域連携DMO]

マネジメント区域：【徳島県】美馬市、三好市、  
つるぎ町、東みよし町



### DMOの特徴

#### 【地域のブランドコンセプト】

「千年のかくれんぼ」～分け入るごとに、時は遡り～  
山里の密やかで豊かな暮らしの魅力を発信

「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の観光地域づくりプラットフォームとして、2011年に設立し、観光地域づくりの戦略策定やマネジメント、旅行商品の開発販売や国内外からの誘客活動等を担う。



#### ▶インバウンド誘致

民間団体である（一社）大歩危・祖谷いってみる会や行政等と連携し積極的なインバウンド誘致を実施。地域の外国人宿泊者数は、2007年に比べ2019年（31,828人）は約33倍。さらなる誘客に向け、コンテンツの造成や受入環境整備に取り組む。

#### ▶トリプル認定の活用

世界農業遺産「にし阿波傾斜地農耕システム」、SAVOR JAPAN（食と農の景勝地）、観光圏の認定を受けた日本唯一の地であり、その強みを活かした海外からの誘客を実施。

#### ▶物産ブランド「千年のかくれんぼ」

外国人旅行者をターゲットに、独自の地域ブランドとして立ち上げ認証品目の増加と販売拡大を推進。

#### ▶体感プログラムイベント「あわこい」

地域住民が主体で展開する、にし阿波体感プログラムイベントを運営し、観光地域づくりに参画する関係者を拡大。

#### ▶体験型観光（農泊）の実施

中高生を対象とした教育旅行や一般観光客を受け入れる農林漁家民宿といった体験型観光を進め、2019年6、070人泊を受入。また、世界農業遺産「にし阿波傾斜地農耕システム」等を活用し、企業研修の受入れを進める。

#### ▶新型コロナ感染症に対応する受入れ環境の充実

サクラクオリティ品質認証制度導入施設における、衛生対策現地研修をはじめ、おもてなし力の強化や観光事業者のスキルアップ研修等を実施。また、オンライン商談会やバーチャルツアーに取り組む。



## DMOの取組における優先課題

### ▶課題の概要：来訪者増加に向け、コンテンツ造成等の着地整備が必要

地域の豊かな自然や人々の暮らしのある風景は、日本の文化を体感したいという欧米からの旅行者に高く評価されるものだが、来訪者や滞在日数増加を図っていくためには、満足度を高める必要がある。地域の再来訪意向は全観光圏を下回っており、紹介意向、再来訪意向を高めたい。

### ▶課題の根本原因：体験コンテンツを増やすことが必要

現在の来訪者満足度を支えているのは、「自然景観や雰囲気」。「宿泊施設」「食事・飲食店」が当該地域の強みであるため、満足度を高めるためには「体験プログラム・ツアー」のブラッシュアップの優先度が高い。

## 課題解決に向けた取組

### ▶豊かな自然や伝統文化を活かし、来訪者が満足する体験コンテンツ造成

これまで、観光庁補助事業を活用し、コンテンツ造成を実施。令和2年度は、「箸蔵寺で瞑想体験」「武家屋敷で味わう出張シェフランチ」「吉野川でリバーツーリング」「お守り豆下駄の鼻緒付け体験」等のコンテンツを造成。令和3年度は、よりコロナ感染症対策を意識し、密でない集落特性、自然、農地等の解放空間等を活かし、少人数で高付加価値なコンテンツを念頭に、コンテンツの磨き上げや組み合わせを行い、旅行商品造成を実施。

### ▶外国人旅行者目線での案内やコンテンツの見直しと充実

外国人旅行者向け観光ガイド養成を行ってきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症により外国人ツアーが中止になり、ガイド養成も実践ができなかった。令和3年度は、「世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業」を活用し、外部専門人材によるガイド育成、コンテンツ見直し等を実施。

## DMOからのコメント

重点支援DMOに認定された後、観光庁の担当者様が地域を訪れ、現状や課題の共有をされた上で、観光庁施策の活用等の情報提供や相談対応を行っていただき、令和3年度は観光庁事業を活用し、コンテンツ造成や受入環境充実の取組を行うこととなりました。事業採択の可能性等が事前にある程度分かれば、時間が有効に使え有難いです。引き続き重点支援DMOの認定を受け、観光地域づくりに活かしたいと考えています。

## お問い合わせ先

(一社) そらの郷

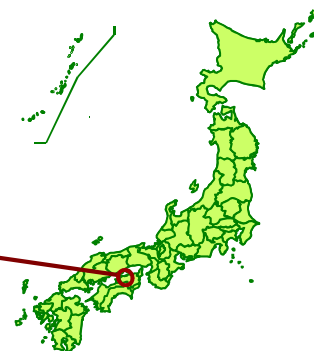
TEL:0883-87-8988

URL:<https://nishi-awa.jp>

## (公社) 香川県観光協会

[地域連携DMO]

マネジメント区域：香川県



### DMOの特徴

#### ▶エリアの地域資源

美しい瀬戸内海の自然と金刀比羅宮や日本遺産として認定された四国遍路をはじめ、伝統ある文化が育まれてきた。また、イサム・ノグチ、猪熊弦一郎、東山魁夷など世界的なアーティストの名を冠した美術館や、「地中美術館」、「豊島美術館」など特徴のある美術館、丹下健三や流政之など著名な建築家や彫刻家の手による建築物やパブリックアートのほか、我が国を代表する大名庭園の一つである「栗林公園」など、数多くのアートや文化資源が集積している。さらに、「瀬戸内国際芸術祭」の開催を契機として、直島をはじめとする瀬戸内海の島々を中心に新たなアート作品の蓄積も進んでいる。

#### ▶地域住民を巻き込んだ観光地域づくり

地元のことを深く知ることで、誇りや郷土愛を育んでもらうため、香川の観光・歴史・文化・食などの様々な分野に精通した講師による住民向け講座「さぬきアカデミー」（年間10講座）を平成26年から継続して開催しており、これまでに延べ3,000人を超える方が受講。また、観光客を最初にお出迎えすることも多い観光従事者、タクシー・バス乗務員などを対象に、観光の基礎知識や接客技術の向上を図る接遇マナー研修を毎年開催。

#### ▶地域通訳案内士の養成

香川県は全国に先駆けて、通訳案内士法（平成30年1月改正）に基づき、地域通訳案内士を3年計画で120名養成するとした「香川県地域通訳案内士育成等計画」の同意を観光庁長官から得て、「香川せとうち地域通訳案内士」の養成に取り組んでいる。

<目標> 3年計画（H30年度～令和2年度）で120名を養成（登録）

<実績> 122名（英 85名・中 31名・韓 6名）の地域通訳案内士が県に登録（R3.2.1現在）

香川県を訪れる外国人観光客の満足度向上を担う(公社)香川県観光協会としては、「香川せとうち地域通訳案内士」が、その使命と役割を果たし、県内の観光施設等で活躍できるよう、香川県と連携し、県内観光事業者とのマッチングイベントを実施するとともに、プレゼンテーション能力の向上や危機対応などを学ぶためのスキルアップ研修を実施し、海外からの観光客への対応ができる人材を確保。

## DMOの取組における優先課題

### ▶課題の概要

令和元年の香川県における訪日外国人旅行者の1人当たりの消費単価（観光・レジャー目的）※は、55,201円で、関東地域（99,962円）や近畿地域（80,055円）の消費単価に比べて低い。

※出典：訪日外国人消費動向調査

### ▶課題の要因

こうした状況は、日帰り旅行者の割合が67%程度と高く、宿泊を伴う来訪の動機付けとなる観光資源の造成や磨き上げが不足していること、また、訪日外国人旅行者の受入環境の整備が十分ではないこと等に起因するものと考えられる。

## 課題解決に向けた取組

### ▶取組の概要 1

観光庁補助制度 令和3年度「広域周遊観光促進のための観光地域支援事業」を活用し、下記①②の事業を中心に新たなコンテンツの造成及び流通環境整備に取り組むことにより、本県での滞在時間拡大と消費額増加を目指す。

- ①国内旅行者向け：香川独自の体験コンテンツをブラッシュアップし、国内主要OTAに掲載することで実販売につなげる。
- ②インバウンド向け：四国遍路をテーマに遍路、宿泊、まち歩きなどの各体験コンテンツを1エリアで開発し、次年度以降に県内の他エリアへ横展開を図る。

### ▶取組の概要 2

観光庁補助制度 令和3年度「世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業」を活用し、株式会社オマツリジャパンの人材（山本陽平氏、大山勝廣氏）を外部専門人材として登用し、令和4年度の瀬戸内国際芸術祭も見据え、インバウンド向けの滞在型コンテンツの開発・磨き上げ、自走化、販路開発等に取り組む。

## DMOからのコメント

重点支援DMOに選定していただき、観光庁の窓口が一元化されたことで、風通し良くコミュニケーションが図れるようになりました。また、他エリアの優良取組事例の提供や補助事業応募段階での具体的なアドバイスなどにより、地域課題に対応した質の高い事業の実施が可能となりました。今後もこうした支援を有効に活用し、エリア内の受入環境整備の推進を図ります。

## お問い合わせ先

（公社）香川県観光協会

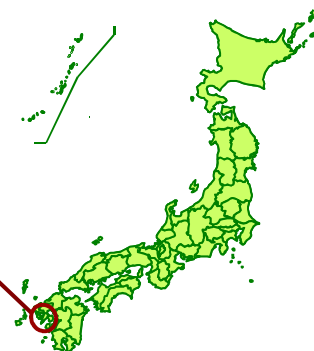
TEL:087-832-3377

URL:<https://www.my-kagawa.jp/>

# (一社) 長崎国際観光コンベンション協会

## [地域DMO]

マネジメント区域：【長崎県】長崎市



### DMOの特徴

平成30年に地域DMOとして登録される。観光・交流まちづくりの舵取り役として、「訪問客の満足度向上・消費拡大」、「事業者のビジネスチャンス拡大・収益向上」、「市民の満足度向上」を継続的に実現することにより、訪問客・事業者・市民が相互にwin-winとなる調和のとれた「選ばれる21世紀の交流都市」を目指す。

### 地域の特性と変革

開港以来450年の歴史・文化、自然・景観など豊かな地域資源を活かし、体験型まち歩き「長崎さるく」をはじめ、2つの世界文化遺産登録、夜間景観の磨き上げ、インバウンド受入強化など、継続した観光地域づくりの取組を進めてきた。

今年秋に開業する「長崎市恐竜博物館」、コンベンション施設「出島メッセ長崎」をはじめ、令和4年秋の西九州新幹線の開業に伴う駅周辺再整備、さらに民間による地方創生のモデルとなる長崎スタジアムシティプロジェクト、海の玄関口である長崎松が枝国際観光船埠頭の2バース化など、ここ数年は「100年に一度」とも言える大きなまちの変革期を迎え、都市機能の向上が加速する中、訪問客の増加と新規ビジネスの参入が期待されている。



### コロナ禍の取組

#### 観光資源の掘り起こし・魅力向上に資するコンテンツ開発

ウィズコロナの三密回避を意識し、民間事業者と連携しながら、郊外エリアにおけるアウトドア体験型コンテンツの企画・開発を強化している。

また、コロナ禍における満足度の高い「安全安心な旅」の創出のため、宿泊事業者の朝食事業の見直しを契機に、飲食事業者と連携して「長崎らしさを味わえる朝食」の提供を行う「泊食分離」の取組と「体験型コンテンツ」を組み合わせた宿泊プランを造成・販売している。今年度は「朝たび長崎」という商品名でプラン対象エリアを広げるとともに今後インバウンド向けの着地型商品としても展開していく。参加事業者を拡大し、不足している朝の体験型コンテンツの充実を図る。

#### 宿泊施設における新型コロナウイルス感染症予防対策認証制度 (team NAGASAKI SAFETY)

令和2年8月、長崎大学の協力のもと、長崎市・雲仙市・佐世保市が、官民一体のチームで取り組む安心・安全のための認証制度を創設し、長崎市においては、令和3年4月現在で、76の宿泊施設が認証を受けている。認証に当たっては、審査員による実地審査と認証後も定期的な審査を行うとともに、認証された宿泊施設では、長崎大学監修のガイドラインに則り、新型コロナウイルス予防対策に取り組む。今年度は長崎県下でエリア及び対象業種の拡大を図る。





## DMOの取組における優先課題

### ▶ ブランディングの確立

歴史・文化・自然・食など多様な魅力・地域資源を有する長崎市は、認知度の割に訪問意向・訪問経験が伸び悩んでおり、選ばれるためのブランディングが必要である。

### ▶ DX化・ワンストップ機能の強化

コロナ禍において、観光分野でもデジタルを活用した観光情報の収集や予約・決済が一般化しつつあることを踏まえ、観光のDX化を図る必要がある。

また、新JR長崎駅の総合観光案内所のリニューアルに伴い、ワンストップ機能を強化する必要がある。

### ▶ 滞在満足度を高める受入態勢強化

訪問客の滞在満足度を高めるため、ニーズを引き出し、寄り添った提案をできる質の高いガイドを育成する必要がある。

## 課題解決に向けた取組

### ▶ ブランディングの確立

「選ばれる21世紀の交流都市」の実現のため、既存のインバウンド向けブランド、MICEブランドを包含するマスターブランドを構築するとともに、今後のマーケティング活動、セールスプロモーション活動の指針となるブランドコミュニケーションプランを策定する。

### ▶ DX化・ワンストップ機能の強化

「観光のDX化」に対応できるワンストップの仕組みと情報収集・発信の基盤を整備し、多様な関係者が持つ情報を旅マエ、旅ナカ、旅アトの訪問客のニーズに対応しタイムリーに発信できる仕組みを構築する。観光庁の専門人材派遣の支援を活用し、効果的なプロモーションの仕組みづくりとCRMによるマーケティングの確立を組織強化も含め検討・推進していく。

また、観光案内所機能における情報発信と着地型商品の販売等の機能強化を図る。

### ▶ 滞在満足度を高める受入態勢強化

令和2年度、国内外の多様化する訪問客のニーズに応え、滞在時間を延ばせる質の高い有償ガイドの育成のためにワークショップを含む研修と在住外国人を活用したモニターツアーを実施した。

今後、観光客だけでなく、MICEのプレ・ポストプログラムにも対応できる多様な体験型商品を案内できる質の高いガイドの育成を継続する。また、旅マエでの情報提供やマッチング、観光案内所等における旅ナカでのガイドマッチングに対応できる仕組みを構築していく。

## DMOからのコメント

重点支援DMOに選定され、様々な課題に対して助言・支援をいただいています。今後も、観光地域づくりのかじ取り役として成長と進化をし続けていきます。

## お問い合わせ先

(一社) 長崎国際観光コンベンション協会

TEL:095-823-7423

URL:<https://nagasaki-visit.or.jp/>

# (一社) 豊の国千年ロマン観光圏

## [地域連携DMO]

マネジメント区域：【大分県】別府市、中津市、宇佐市、豊後高田市、国東市、杵築市、日出町、姫島村



### DMOの特徴

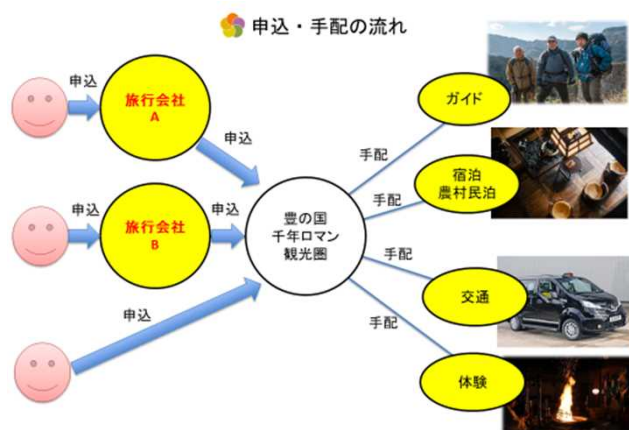
日本有数の温泉地「別府」、宇佐神宮の影響を受け国東半島で栄えた「六郷満山文化」等、他の地域にはない千年以上の歴史・文化を活かし観光地域づくりを推進するプラットフォーム。  
観光庁の認定を受けた「観光地域づくりマネージャー」とDMOが連携し、地域一体となる観光地域づくりを行う。

1300年以上の歴史を持つ国東半島六郷満山等の歴史的な道や、世界農業遺産に認定された当地域ならではの魅力、資源を活用したコンテンツの造成・販売の他、ガイド手配等、ワンストップ窓口として地域をコーディネートする役割を担う。  
(旅行業2種登録)。

欧州・豪の富裕層をターゲットとし、2泊3日以上滞在交流型観光を推進。歴史的な道を歩くウォーキング、トレッキングの他、別府温泉の宿泊施設や農村民泊、地元ガイド・英語ガイド等を組み合わせた高付加価値の滞在交流型ツアーを販売している。



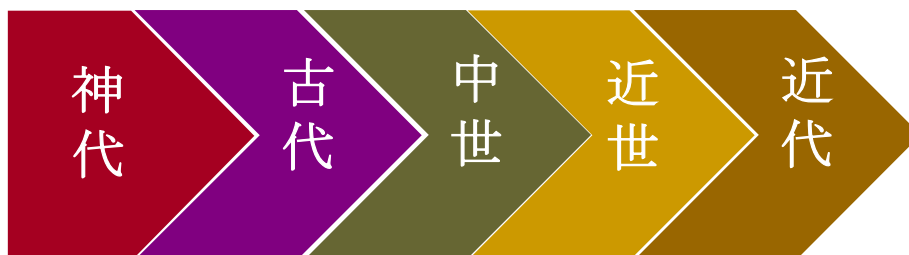
地域一体となる観光地域づくり  
＜観光による地方創生＞



### ● ブランドコンセプト

「千年の記憶がひもとく 知られざる日本」 ～千年ロマン時空の旅～

- ・千年以上続く宇佐神宮を中心とした国東半島の六郷満山文化。神仏習合発祥の地であり、表舞台の「都」の歴史文化では語られない、もう一つの日本の歴史文化。
- ・神代から近代までの千年の時の流れに培われた暮らし・生活文化の記憶。



## DMOの取組における優先課題

### ▶別府温泉エリアに観光客が集中

別府温泉エリアに観光客が集中しており、周辺地域への周遊・滞在促進が課題。国東半島の認知度不足や公共交通での移動が困難であることが原因。

### ▶旅行消費額が低い

大分県全体として全国的に旅行消費額が低く、更には別府温泉エリアと周辺地域で宿泊単価の違い等から旅行消費額に差がある。

## 課題解決に向けた取組

### ▶当地域ならではの魅力を体感できるコンテンツの充実

国東半島や耶馬溪など、別府温泉にはない歴史や文化・暮らしを体感できる体験プログラム等のコンテンツを企画・販売している。魅力的なコンテンツを充実させることで、別府温泉エリアからの周遊、域内での滞在を促進するとともに、旅行消費額の向上に繋げる。

当地域全体を案内できるガイド、英語ガイドを手配できる体制を構築した。

### ▶宿泊施設の品質向上

宿泊施設の観光品質認証制度「SAKURA QUALITY」を活用し、宿泊施設の品質向上を図り、旅行消費額の向上を図る。認証施設：11施設

### ▶高付加価値の滞在交流型ツアーの造成・販売

特にターゲットとしている欧州・豪向けに滞在交流型ツアーを企画。当地域でしか体験できないコンテンツ、英語ガイド、交通、宿泊等を組み合わせ、付加価値の高い旅行商品を販売することで旅行消費額の向上、滞在・周遊促進を図る。

## DMOからのコメント

これまでもターゲットである欧州・豪に訴求力のある旅行会社と連携し、商品造成・販売・受入に向けて取組を進めてきたが、「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた地域コンテンツ確認事業」により、欧米の富裕層に訴求力のある新たな旅行会社と取組ができる見込みとなった。

観光庁の支援メニューを活用しながら、これまでに進めてきた着地整備により、多様なニーズに対応できる地域になっていると感じている。

## お問い合わせ先

(一社) 豊の国千年ロマン観光圏

TEL:0977-85-8511

URL:<https://www.millennium-roman.jp/>

# (公財) 阿蘇地域振興デザインセンター

## 【地域連携DMO】

マネジメント区域：【熊本県】阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村、山都町  
【大分県】竹田市【宮崎県】高千穂町



### DMOの特徴



公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターは、阿蘇地域に属する市町村と連携を図り、地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信に取り組むためのシンクタンクとして設立されました。平成30年には広域連携型の観光地域づくりのかじ取り役として日本版DMOに登録されました。持続可能な観光地経営の視点に立ちながらも、観光のみならず、地域づくりのビジョンを描き、これからも阿蘇地域及び阿蘇くじゅう観光圏の発展と振興に努めていきます。

### コロナ禍の取組

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、阿蘇地域の観光資源を発信する事業として「新阿蘇紀行」と題し、阿蘇地域の動画をYouTubeに公開しました。また、熊本市のサクラマチクマモトやJR博多駅のデジタルサイネージを活用した情報発信を行いました。「ASOエール飯」として阿蘇地域のテイクアウト情報の発信を行いました。

### 地域づくり法人としての取組

持続可能な観光地域づくりに必要なものは人材として、当DMOでは様々な人材育成研修を開催してきました。

#### ○ASOキックオフミーティング2020

令和2年8月21日に「After熊本地震 withコロナの阿蘇を考える！」と題して意見交換会を開催しました。

#### ○令和2年度第1回地域づくり研修会

令和2年12月18日に「新型コロナウイルスを乗り越える地域づくり再考！」と題して、法政大学名誉教授 岡崎昌之氏を講師としてお招きし研修会を開催しました。

#### ○令和2年度観光地域づくり研修会

令和3年2月18日に「観光地域づくりは女性の活躍で！」と題して、流通科学大学教授 柏木千春氏を講師としてお招きし研修会を開催しました。





## DMOの取組における優先課題

### ▶ 着地型体験コンテンツの周知不足

当観光圏への来訪者満足度調査の結果を見ると体験プログラムツアー内容、ツアーガイドの評価が低い傾向にあります。体験コンテンツは十分な数を造成してきたので、コンテンツ情報の情報発信が必要と考えます。

### ▶ 欧米豪インバウンドの伸び悩み

当観光圏のメインターゲットである欧米豪のインバウンド客については伸び悩みの状況があります。

## 課題解決に向けた取組

### ▶ 令和2年度ナイトタイムエコノミー推進に係るコンテンツ造成事業

阿蘇市観光課と連携して計画し、九州運輸局観光地域振興課が事業主体として、阿蘇市のナイトタイムコンテンツの磨き上げ、ファムツアー、広告HPのリニューアル、海外商談会への広報に取組みました。

### ▶ 令和元年度予備費訪日外国人広域周遊事業

阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップ（英語版）、阿蘇地域Wi-Fiスポットマップwebサイトを制作しました。

### ▶ 令和2年度九州3観光圏連携事業

台湾・香港の旅行会社向けのウェビナーを開催しました。次年度以降も台湾・香港の旅行会社でニーズが多かったMICE、教育旅行、団体旅行、富裕層向けの食事の情報を発信していく予定です。

### ▶ 令和3年度中九州DMO連携事業

一般社団法人高千穂町観光協会と連携して欧州向けのオンライン商談会を計画しています。高千穂町観光協会が構築してきた欧州の豊富な人脈を活かして、欧州のコーディネーターと直接商談や情報発信をしていく予定です。将来の計画としてインバウンド対応に特化したコンタクトポイントの設立を目指しております。



## DMOからのコメント

重点支援DMOに選定されたことで、観光庁事業の申請時において観光庁の方に直接ご意見をうかがえる機会が増えました。また、和歌山県田辺市で開催された重点支援DMO研修に参加し、地域をあげたインバウンド対応を学びました。他DMOの方と意見交換を行い、大変有意義な研修となりました。今後、研修で学んだことを観光地域づくりに活かしていきたいと思えます。

## お問い合わせ先

(公財) 阿蘇地域振興デザインセンター

TEL:0967-22-4801

URL:<https://www.asodc.or.jp>